

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）

介護福祉科 1 2 5 8 時間

60 単位

実務経験のある教員等リスト

教員名	科目	時間数	単位数	教員の実務経験
上原 尚子	生活支援技術Ⅰ	20	1	医療施設にて管理栄養士、介護福祉士、健康運動指導士として勤務
	生活支援技術Ⅱ	10		
内平 八重子	認知症の理解Ⅰ・Ⅱ	60	4	保健師として勤務,社会福祉協議会にて社会福祉士として勤務
	社会の理解	60	4	
河野 ひろ子	発達と老化の理解	60	4	病院、高齢者施設にて看護師として勤務
	障害の理解Ⅰ・Ⅱ	60	4	
	介護過程Ⅱ	60	4	
	介護総合演習Ⅱ	60	4	
	医療的ケアⅠ	44	2	
	医療的ケアⅡ	20	1	
崎井 真弓	生活支援技術Ⅰ	20	1	病院にて看護師として勤務
	介護総合演習Ⅰ	60	4	
	介護過程Ⅱ	60	4	
	こころとからだのしくみⅠ	30	2	
	こころとからだのしくみⅡ	30	2	
	医療的ケアⅠ	50	2	
	医療的ケアⅡ	20	1	
澤田 祥子	コミュニケーション技術	20	1	広島県ろうあ連盟から派遣され手話通訳士として多部門で勤務
藤原 久礼	人間関係とコミュニケーション	20	1	有料老人ホームに事務長として勤務 自立援助ホームに相談員として勤務
山崎 年幸	介護の基本Ⅱ	30	2	病院にて介護福祉士として勤務
	コミュニケーション技術	10		
牟田口 辰巳	生活支援技術Ⅲ	4	2	日本リハビリテーション連携科学会理事 元広島大学大学院教育学研究科特別支援教育講座教授
河野 ひろ子 山崎 年幸 各実習施設指導者	介護実習Ⅰ	45	1	実習施設指導者は高齢者福祉施設にて指導者要件のある人が担当 (法令上、実習指導者になる要件の一つとして、介護福祉士資格取得後3年以上の実務が必要)
	介護実習Ⅱ	90	2	
	介護実習Ⅲ	135	3	
	介護実習Ⅳ	180	4	
		1258	60	

令和8年度 授業概要

科目名 生活支援技術 I（栄養）		授業の種類 （講義）	授業担当者 上原 尚子 元 クリニック管理栄養士
授業の回数 10	単位数 1.33/4	配当学年・時期 1年 介護福祉科	
[授業の目的・ねらい] 支援対象者の生活をより安全で健康的な食生活にするために、「自立に向けた食事の介護」を学ぶ			
[授業全体の内容の概要] 三大栄養素(たんぱく質、脂質、炭水化物)をはじめとし、生活支援に必要な栄養学の基礎知識を学ぶ 高齢者や様々な疾患の特長と栄養的観点からの支援方法を学ぶ			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 栄養摂取の重要性とその適切な方法を修得する。 高齢者や疾患のある対象者に必要な栄養の知識を修得する			
[授業終了時の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 食事の意義と目的「食とは」 2 食事の意義と目的「栄養素」 3 栄養に関する基礎知識① 炭水化物 4 栄養に関する基礎知識② 脂質 5 栄養に関する基礎知識③ たんぱく質 6 栄養に関する基礎知識④ ミネラル・ビタミン 7 安全で的確な食事の介護 脱水・BMI 8 安全で的確な食事の介護 高齢者の栄養と食事 9 疾患別の栄養と食事 10 試験			
[使用テキスト] 教科書、プリント		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 授業内の提出物と試験を行い、 その内容で評価する	
[参考文献]			

令和8年度 授業概要

科目名 生活支援技術 II (調理)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 上原 尚子 元 クリニック管理栄養士
授業の回数 5	単位数 0.33/10	配当学年・時期 1年 介護福祉科	
[授業の目的・ねらい] 咀嚼や嚥下機能が低下している支援対象者に対し、普段食べている食事(常食)に近い形で食事を提供するための技術を修得する			
[授業全体の内容の概要] 生活支援技術 I (栄養)で学んだ、高齢者に提供する食事を実際に作りその技術を修得する また、実際に実習を行うことにより、作業手順や効率、調理時のポイントなどを学ぶ			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 支援を必要とする人物が様々な存在し、その支援内容は多種多様であることを知る 食事内容を個々人で検討し、それを自分達で共同して提供できる形・味にする			
[授業終了時の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 介護食とその調理に関する基礎知識 2 嚥下機能の低下した対象者に提供する食事の実習 (お粥、ソフト食、ミキサー食) ① 3 嚥下機能の低下した対象者に提供する食事の実習 (お粥、ソフト食、ミキサー食) ② 4 課題対象者に対する食事の作成 ① (試験) 5 課題対象者に対する食事の作成 ② (試験)			
[使用テキスト] プリント		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 各班ごとに対象者を決め、その対象者にあった食事内容を献立作成し、実習する 完成した、献立と、レポートによって評価する	
[参考文献]			

2026年度 授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者																														
社会の理解		(講義・演習・実習)	内平 八重子 元看護師、社会福祉協議会勤務																														
授業の回数	時間数	配当学年・時期																															
30コマ	60時間	介護福祉科2年 通年																															
[授業の目的・ねらい] 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識																																	
[授業全体の内容の概要] 社会の理解では、生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。																																	
[授業終了時の達成課題(到達目標)] (1)個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できるようにする。 (2)地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のため制度・施策を理解できるようにする。 (3)社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題を理解できるようにする。 (4)高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容、高齢者福祉の現状と課題を理解できるようにする。 (5)障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容、障害者福祉の現状と課題を理解できるようにする。																																	
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 <table><tr><td>1 高齢者保健福祉の動向</td><td>16 成年後見制度・日常生活自立支援事業</td></tr><tr><td>2 高齢化と保健福祉</td><td>17 保健医療の制度</td></tr><tr><td>3 介護保険制度：背景と目的</td><td>18 貧困・地域生活</td></tr><tr><td>4 介護保険制度：財源</td><td>19 障害福祉他：確認テスト</td></tr><tr><td>5 介護保険制度：給付サービス</td><td>20 社会と生活のしくみ</td></tr><tr><td>6 介護保険制度：地域支援事業</td><td>21 地域福祉の発展①</td></tr><tr><td>7 介護保険制度：ケアマネジメント</td><td>22 地域福祉の発展②</td></tr><tr><td>8 介護保険制度：復習</td><td>23 社会保障制度 考え方と発達</td></tr><tr><td>9 介護保険制度：確認テスト</td><td>24 社会保障制度 しくみ①</td></tr><tr><td>10 障害者保健福祉の動向・定義</td><td>25 社会保障制度 しくみ②</td></tr><tr><td>11 障害者福祉の法律と制度</td><td>26 現代社会と社会保障制度</td></tr><tr><td>12 障害者総合支援法の全体像</td><td>27 高齢者福祉の復習</td></tr><tr><td>13 障害者総合支援法の給付サービス</td><td>28 障害者福祉の復習</td></tr><tr><td>14 障害者総合支援法の財源 専門職</td><td>29 社会保障制度の復習</td></tr><tr><td>15 権利擁護 虐待防止</td><td>30 単位認定試験</td></tr></table>				1 高齢者保健福祉の動向	16 成年後見制度・日常生活自立支援事業	2 高齢化と保健福祉	17 保健医療の制度	3 介護保険制度：背景と目的	18 貧困・地域生活	4 介護保険制度：財源	19 障害福祉他：確認テスト	5 介護保険制度：給付サービス	20 社会と生活のしくみ	6 介護保険制度：地域支援事業	21 地域福祉の発展①	7 介護保険制度：ケアマネジメント	22 地域福祉の発展②	8 介護保険制度：復習	23 社会保障制度 考え方と発達	9 介護保険制度：確認テスト	24 社会保障制度 しくみ①	10 障害者保健福祉の動向・定義	25 社会保障制度 しくみ②	11 障害者福祉の法律と制度	26 現代社会と社会保障制度	12 障害者総合支援法の全体像	27 高齢者福祉の復習	13 障害者総合支援法の給付サービス	28 障害者福祉の復習	14 障害者総合支援法の財源 専門職	29 社会保障制度の復習	15 権利擁護 虐待防止	30 単位認定試験
1 高齢者保健福祉の動向	16 成年後見制度・日常生活自立支援事業																																
2 高齢化と保健福祉	17 保健医療の制度																																
3 介護保険制度：背景と目的	18 貧困・地域生活																																
4 介護保険制度：財源	19 障害福祉他：確認テスト																																
5 介護保険制度：給付サービス	20 社会と生活のしくみ																																
6 介護保険制度：地域支援事業	21 地域福祉の発展①																																
7 介護保険制度：ケアマネジメント	22 地域福祉の発展②																																
8 介護保険制度：復習	23 社会保障制度 考え方と発達																																
9 介護保険制度：確認テスト	24 社会保障制度 しくみ①																																
10 障害者保健福祉の動向・定義	25 社会保障制度 しくみ②																																
11 障害者福祉の法律と制度	26 現代社会と社会保障制度																																
12 障害者総合支援法の全体像	27 高齢者福祉の復習																																
13 障害者総合支援法の給付サービス	28 障害者福祉の復習																																
14 障害者総合支援法の財源 専門職	29 社会保障制度の復習																																
15 権利擁護 虐待防止	30 単位認定試験																																
[使用テキスト] 最新介護福祉士養成講座2 社会の理解(中央法規) その他、適宜資料を配布する		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) <table><tr><td>授業態度</td><td>20%</td></tr><tr><td>確認テスト</td><td>20%</td></tr><tr><td>単位認定試験</td><td>60%</td></tr></table>		授業態度	20%	確認テスト	20%	単位認定試験	60%																								
授業態度	20%																																
確認テスト	20%																																
単位認定試験	60%																																
[参考文献]																																	

令和8年度 授業概要

科目名 認知症の理解 I		授業の種類 (講義)演習・実習)	授業担当者 内平 八重子 元看護師、社会福祉協議会勤務						
授業の回数 15コマ	単位数 2単位	配当学年・時期 介護福祉科1年 前期							
[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。									
[授業全体の内容の概要] 認知症を取り巻く状況、医学的側面から見た認知症の基礎、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援などについて、座学だけでなく、認知症のある人の生活の様子を視聴覚教材や事例検討を通して理解する。									
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・認知症のケアの歴史や理念を含む、認知症を取りまく社会的環境について理解する。 ・医学的・心理的側面から認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し生活支援を行うための根拠となる知識を理解する。									
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 認知症とは何か 2 脳のしくみ 3 中核症状・生活障害 4 行動・心理症状 5 原因疾患と症状・若年性認知症 6 検査・治療・予防 7 取り巻く状況・理念と視点 8 当事者の視点 9 パーソンセンタードケア 10 アセスメントツール 11 認知症のケア① 12 認知症のケア② 13 アプローチ 14 復習 15 まとめ／単位認定試験									
[使用テキスト] 最新介護福祉士養成講座 認知症の理解(中央法規) その他、適宜資料を配布する		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) <table><tr><td>授業態度</td><td>20%</td></tr><tr><td>確認テスト</td><td>20%</td></tr><tr><td>単位認定試験</td><td>60%</td></tr></table>		授業態度	20%	確認テスト	20%	単位認定試験	60%
授業態度	20%								
確認テスト	20%								
単位認定試験	60%								
[参考文献]									

令和8年度 授業概要

科目名 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 (講義)演習・実習)	授業担当者 内平 八重子 元看護師、社会福祉協議会勤務						
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 介護福祉科2年 前期							
[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。									
[授業全体の内容の概要] 認知症を取り巻く状況、医学的側面から見た認知症の基礎、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援などについて、座学だけでなく、認知症のある人の生活の様子を視聴覚教材や事例検討を通して理解する。									
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践が分かる。 ・認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する。 ・認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援が分かる。									
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 家族支援・介護者の対応 2 高齢者虐待 3 制度・施策 4 地域生活支援 5 連携と協働 6 復習：認知症を取り巻く状況 7 復習：原因疾患 8 復習：中核症状・生活障害 9 復習：行動・心理症状 10 復習：間違われやすい疾患症状 11 復習：検査・治療・予防 12 復習：生活の支援 13 復習：制度政策 14 復習：連携と協働 15 まとめ／単位認定試験									
[使用テキスト] 最新介護福祉士養成講座 認知症の理解(中央法規) その他、適宜資料を配布する		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) <table><tr><td>授業態度</td><td>20%</td></tr><tr><td>確認テスト</td><td>20%</td></tr><tr><td>単位認定試験</td><td>60%</td></tr></table>		授業態度	20%	確認テスト	20%	単位認定試験	60%
授業態度	20%								
確認テスト	20%								
単位認定試験	60%								
[参考文献]									

令和8年度 授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
医療的ケアⅠ		(講義・演習)	河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
22回	44時間	介護福祉科2年	
[授業の目的・ねらい]			
生活支援を必要とする要支援者のうち、医行為を必要とする要支援者は増加傾向にある。尊厳を尊重する視点から、介護福祉士が医療的ケアを実施するニーズが高まっていることから、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する			
[授業全体の内容の概要]			
医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養等が行えるための知識と技術を学習する。またその実施に伴い必要となる健康状態の把握、急変時の対応、清潔行為、感染予防等についても学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
1 医療的ケアに関する基礎的知識が理解できる 2 喀痰吸引の基礎的知識および実勢手順と留意点を理解することができる 3 経管栄養の基礎的知識および実施手順と留意点を理解することができる			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
第1節 医療的ケアの基礎		21	気管カニューレ内部の吸引の実施手順
12コマまではクラス全体、13コマから2分の1クラスで担当する		22	気管カニューレ内部の吸引の留意点
		23	子どもの吸引・喀痰吸引に伴うケア
		24	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、記録・報告
		25	確認試験
		第3節 高齢者および障害児・者の経管栄養	
		25	消化器系のしくみとはたらき・「経管栄養」とは
		26	注入する内容に関する知識・
		27	経管栄養に関係する感染と予防 経管栄養で用いる器具の理解・清潔保持
		28	胃ろう・腸ろう経管栄養の実施手順
		29	胃ろう・腸ろう経管栄養の留意点
13	第1節の確認試験	30	経鼻経管栄養の実施手順
第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引		31	経鼻経管栄養の留意点
13	呼吸のしくみとはたらき	32	こどもの経管栄養・経管栄養に必要なケア
14	「喀痰吸引」とは・呼吸系の感染と予防	33	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、記録・報告
15	人工呼吸器と吸引	34	まとめ・単位認定試験
16	喀痰吸引で用いる器具の理解		
17	口腔内吸引の実施手順		
18	口腔内吸引の留意点		
19	鼻腔内吸引の実施手順		
20	鼻腔内吸引の留意点		
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準]	
最新「介護福祉士養成講座15 医療的ケア第2版 中央法規		(試験やレポートの評価基準など) ・学則に定める通り ・レポート等の提出物	
[参考文献]			
「介護福祉士養成テキスト第4巻 医療的ケア」 中央法規 「最新介護福祉全書13 医療的ケア」 メジカルフレンド社			

令和8年度 授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
医療的ケアⅡ		(講義・演習)	河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
10回	20時間	介護福祉科2年	
[授業の目的・ねらい] 生活支援を必要とする要支援者のうち、医行為を必要とする要支援者は増加傾向にある。尊厳を尊重する視点から、介護福祉士が医療的ケアを実施するニーズが高まっていることから、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する			
[授業全体の内容の概要] 医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養等が行えるための知識と技術を学習する。またその実施に伴い必要となる健康状態の把握、急変時の対応、清潔行為、感染予防等についても学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1 喀痰吸引の基礎的知識および実勢手順と留意点を理解することができる 2 経管栄養の基礎的知識および実施手順と留意点を理解することができる			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 口腔内吸引 練習(医Ⅰ ⑰のあと) 2 口腔内吸引 試験 3 鼻腔内吸引 練習(医Ⅰ ⑲のあと) 4 鼻腔内吸引 試験 5 気管カニューレ内部の吸引 練習(医Ⅰ ⑳のあと) 6 気管カニューレ内部の吸引 試験 7 胃ろうおよび腸ろうから経管栄養 練習(医Ⅰ ㉔のあと) 8 胃ろうおよび腸ろうから経管栄養 試験 9 経鼻経管栄養 練習(医Ⅰ ㉙のあと) 10 経鼻経管栄養 試験			
[使用テキスト] 最新「介護福祉士養成講座15 医療的ケア第2版 中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・学則に定める通り ・レポート等の提出物	
[参考文献] 「介護福祉士養成テキスト第4巻 医療的ケア」 日本介護福祉士養成施設協会 「最新介護福祉全書13 医療的ケア」 メジカルフレンド社			

令和8年度 授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者 河野 ひろ子	
介護過程Ⅱ		講義・演習	元 病院・高齢者施設看護師	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
30	60	介護福祉科	2	通年
〔授業の目的・ねらい〕				
本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行ない、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。				
〔授業全体の概要〕				
介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法について学習する。				
個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開について学習する。				
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕				
介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法について理解する。				
個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開について理解する。				
〔授業の各回テーマ・内容〕				
1 受け持ち利用者の介護計画の整理		疾患・リスクに着目したアセスメント		
2		ICFの視点による情報の整理 生活課題の抽出		
3 アセスメント演習（事例①）		ICF構成因子の関連性をみる		
4 目標および具体的援助内容について		ニーズの原因を考え、その対策を具体的に		
5		目標および具体的援助内容について		
6 事例②介護過程の展開		脳血管障害がある人の介護過程の展開①		
7		脳血管障害がある人の介護過程の展開②		
8		脳血管障害がある人の介護過程の展開③		
9		脳血管障害がある人の介護過程の展開④		
10 事例③介護過程の展開		終末期における介護過程の展開①		
11		終末期における介護過程の展開②		
12		終末期における介護過程の展開③		
13 介護過程の実施と評価		記録様式		
14 介護過程の展開の理解（実践的展開）		受け持ち利用者の介護計画の整理①		
15		受け持ち利用者の介護計画の整理②		
16		受け持ち利用者の介護計画・実施・評価の整理①		
17		受け持ち利用者の介護計画・実施・評価の整理②		
18 介護過程における事例検討・事例研究の必要性		受け持ち利用者の介護過程を振り返る		
19		受け持ち利用者の介護過程を振り返る		
20		受け持ち利用者の介護過程を文献より考察する		
21		受け持ち利用者の介護過程を文献より考察する		
22		受け持ち利用者の介護過程をまとめる		
23		受け持ち利用者の介護過程をまとめる		
24 介護過程とチームアプローチ		介護福祉職がチームとして介護過程を展開する意義・目的		
25		カンファレンスの意義・目的		
26		介護サービス計画と個別サービス計画の関係		
27		多職種連携における介護過程の展開の意義とサービス担当者会議		
28 介護過程のまとめ		全体復習		
29		国家試験対策		
30		単位認定試験		
〔使用テキスト〕		〔単位認定の方法及び基準〕		
「最新介護福祉士養成講座」 9 介護過程 中央法規		・学則に定めるとおり		
〔参考文献〕		・レポート等の提出物		
「介護福祉学5上 こころとからだのしくみ」主婦の友社				

令和8年度 授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者																														
介護総合演習Ⅱ		講義・演習・実習	河野 ひろ子 元病院・高齢者施設看護師 崎井 真弓 元病院看護師																														
授業の駒数	時間数	配当学年・時期																															
30	60	介護福祉科2年 通年																															
[授業の目的・ねらい] 介護演習は、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養うことをねらいとしている。 そして、最終目的として、養成教育全体の総まとめであり、自己の介護観や介護福祉士としての倫理観や職業観の確立に向けて演習を行う。																																	
[授業全体の内容の概要] 介護総合演習Ⅱでは、総合実習の実習全体の流れを軸において、理論学習や演習と関連付けながら、実習に向けて、より効果的な実習が展開できるように準備をする。 実習巡回・帰校日を実施しながら、実習が円滑に行われるようにする。 実習後には、実習報告会を設けて、実習を学生全体のまなびとなるようにする。またケーススタディを通し、視野を広げ、学びを深め、介護についてその根拠を考察し、探求できるよう、サポートする。 また、追加実習を通し、支援制度とそのサービスの種類おとびその実際を理解する。																																	
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1, 介護実習の指導 2, 他科目での学びの統合化 3, 多職種協働の意味と重要性の意識化 4, 養成教育全体の総まとめ・・・自己の介護観を確立することができる																																	
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 <table><tr><td>1 総合実習のねらい</td><td>16 追加実習の目標 個人票</td></tr><tr><td>2 総合実習の目標 個人票</td><td>17 支援制度とそのサービスの理解</td></tr><tr><td>3 実習施設種別の理解</td><td>18 実習施設種別の理解</td></tr><tr><td>4 実習施設の概要</td><td>19 心構え 用紙の整理</td></tr><tr><td>5 実習記録の書き方</td><td>20 自己評価、お礼状</td></tr><tr><td>6 夜間実習・心構えについて</td><td>21 実習の振り返り</td></tr><tr><td>7 自己評価・お礼状</td><td>22 支援制度とそのサービスの理解(復習)</td></tr><tr><td>8 介護過程の記録について②</td><td>23 支援制度とそのサービスの理解(復習)</td></tr><tr><td>9 心構え 用紙の整理</td><td>24 支援制度とそのサービスの理解(復習)</td></tr><tr><td>10 自己評価、お礼状</td><td>25 介護現場の実際の理解①</td></tr><tr><td>11 記録の整理</td><td>26 介護現場の実際の理解②</td></tr><tr><td>12 実習の振り返り</td><td>27 介護現場の実際の理解③</td></tr><tr><td>13 対象事例の整理</td><td>28 総復習</td></tr><tr><td>14 事例研究への取り組み</td><td>29 まとめ</td></tr><tr><td>15 事例研究への取り組み</td><td>30 単位認定試験</td></tr></table>				1 総合実習のねらい	16 追加実習の目標 個人票	2 総合実習の目標 個人票	17 支援制度とそのサービスの理解	3 実習施設種別の理解	18 実習施設種別の理解	4 実習施設の概要	19 心構え 用紙の整理	5 実習記録の書き方	20 自己評価、お礼状	6 夜間実習・心構えについて	21 実習の振り返り	7 自己評価・お礼状	22 支援制度とそのサービスの理解(復習)	8 介護過程の記録について②	23 支援制度とそのサービスの理解(復習)	9 心構え 用紙の整理	24 支援制度とそのサービスの理解(復習)	10 自己評価、お礼状	25 介護現場の実際の理解①	11 記録の整理	26 介護現場の実際の理解②	12 実習の振り返り	27 介護現場の実際の理解③	13 対象事例の整理	28 総復習	14 事例研究への取り組み	29 まとめ	15 事例研究への取り組み	30 単位認定試験
1 総合実習のねらい	16 追加実習の目標 個人票																																
2 総合実習の目標 個人票	17 支援制度とそのサービスの理解																																
3 実習施設種別の理解	18 実習施設種別の理解																																
4 実習施設の概要	19 心構え 用紙の整理																																
5 実習記録の書き方	20 自己評価、お礼状																																
6 夜間実習・心構えについて	21 実習の振り返り																																
7 自己評価・お礼状	22 支援制度とそのサービスの理解(復習)																																
8 介護過程の記録について②	23 支援制度とそのサービスの理解(復習)																																
9 心構え 用紙の整理	24 支援制度とそのサービスの理解(復習)																																
10 自己評価、お礼状	25 介護現場の実際の理解①																																
11 記録の整理	26 介護現場の実際の理解②																																
12 実習の振り返り	27 介護現場の実際の理解③																																
13 対象事例の整理	28 総復習																																
14 事例研究への取り組み	29 まとめ																																
15 事例研究への取り組み	30 単位認定試験																																
[使用テキスト] ・介護福祉士養成講座編集委員会編:「介護総合演習・介護実習」, 中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・学校規定に準ずる 試験60点以上																															
[参考文献]		・実習時の提出物などの提出の有無、内容も採点の評価とする。																															

令和8年度 授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者 河野 ひろ子	
障害の理解 I		講義	元 病院・高齢者施設看護師	
授業の駒数	単位数	学科	学年	配当時期
15	2	介護福祉科	1	通年
〔授業の目的・ねらい〕 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。				
〔授業全体の概要〕 障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基本的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、他職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。				
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 ①障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できる。 ②医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できる。 ③障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができる。 ④障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できる。 障害のある人を支える家族の課題とその支援について理解できる。				
〔授業の各回テーマ・内容〕 1 障害の基礎的理解 障害の概念 2 障害者福祉の基本理念① 3 障害者福祉の基本理念② 4 障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解と 障害のある人の心理 5 特性に応じた支援 I 肢体不自由（脳血管障害） 7 肢体不自由（ALS・パーキンソン病・脊髄損傷） 8 肢体不自由（脳性麻痺・筋原性疾患） 9 肢体不自由（運動器の障害） 10 視覚障害の医学的理解 11 視覚障害の生活の理解（点字・日常生活への支援） 12 聴覚・平衡障害 13 音声・言語・嚥下障害 14 重複障害 15 単位認定試験				
〔使用テキスト〕 「最新介護福祉士養成講座 14障害の理解」 中央法規 〔参考文献〕 「介護福祉学 4 障害の理解」 主婦の友社			〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物	

令和8年度 授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者 河野 ひろ子	
障害の理解Ⅱ		講義	元 病院・高齢者施設看護師	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
15	30	介護福祉科	2	通年
〔授業の目的・ねらい〕 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。				
〔授業全体の概要〕 障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基本的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、他職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。				
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 ①障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できる。 ②医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できる。 ③障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができる。 ④障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できる。 障害のある人を支える家族の課題とその支援について理解できる。				
〔授業の各回テーマ・内容〕 1 障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解と 内部障害（心臓・呼吸器） 2 特性に応じた支援Ⅱ 内部障害（腎臓・膀胱・直腸機能） 3 内部障害（肝臓・免疫機能） 4 知的障害・重症心身障害 5 精神障害者の心理的理解と支援 7 高次脳機能障害 8 発達障害 9 難病の定義 種類と特性 10 障害者福祉に関連する制度 11 障害のある人の生活と支援 障害者の就労 12 地域におけるサポート体制・チームアプローチ 13 連携と協働 障害を持つ人の家族の状況と支援 14 家族への支援 全体のまとめ 15 単位認定試験				
〔使用テキスト〕 「最新介護福祉士養成講座 14障害の理解」 中央法規 〔参考文献〕 「介護福祉学 4 障害の理解」 主婦の友社			〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物	

令和8年度 授業概要

科目名 発達と老化の理解		授業の種類 講義	授業担当者 河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師	
授業の駒数 30	単位数 4	学科 介護福祉科	学年 1	配当時期 通年
〔授業の目的・ねらい〕 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。				
〔授業全体の概要〕 発達と老化の理解では、介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。				
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 ①人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できる。 ②老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解できる。				
〔授業の各回テーマ・内容〕 駒 1 人間の成長と発達の基礎的理解				

令和8年度 授業概要

科目名 こころとからだのしくみⅠ		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 崎井 真弓 元 病院看護師																																
授業の回数 15回	単位数 2単位	配当学年・時期 介護福祉科1年																																	
〔授業の目的・ねらい〕 解剖学、生理学、運動学、心理学等をもとに、人が生活する上でこころとからだはどのようなにはたらくのかを示し、介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を習得する。さらに疾病の発生メカニズムを学ぶことにより、「予防の視点」を身につけることができ、介護福祉士として利用者にかかわる際の健康を意識した支援を実践する根拠が理解できる。																																			
〔授業全体の内容の概要〕 介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を習得する。機能低下・障害が及ぼす日常生活への影響を理解し、根拠に基づいた支援の考え方を理解する。																																			
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 1 健康の定義と障害との関係が理解できる。 2 脳の構造を理解し、こころの動きが理解できる。 3 人体の解剖・生理が理解できる。																																			
〔授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法〕 <table><tr><td>コマ数</td><td></td></tr><tr><td>1 健康とは</td><td>こころとからだのしくみを学ぶ目的</td></tr><tr><td>2 こころのしくみの理解</td><td>健康とは何か・こころとは何か</td></tr><tr><td>3</td><td>こころと高次脳機能</td></tr><tr><td>4</td><td>意識のしくみ</td></tr><tr><td>5</td><td>情動・記憶・学習のしくみ</td></tr><tr><td>6</td><td>人間の欲求の基本的理解・適応と適応機制</td></tr><tr><td>7 まとめ・単元試験</td><td></td></tr><tr><td>8 からだのしくみの理解</td><td>からだの成り立ちの理解</td></tr><tr><td>9</td><td>人体構造 ①脳・神経系</td></tr><tr><td>10</td><td>人体構造 ②骨格・筋系</td></tr><tr><td>11</td><td>人体構造 ③呼吸器系</td></tr><tr><td>12</td><td>人体構造 ④循環器系</td></tr><tr><td>13</td><td>人体構造 ⑤消化器系</td></tr><tr><td>14</td><td>人体構造 ⑥腎・泌尿器系</td></tr><tr><td>15 まとめ・単位認定試験</td><td></td></tr></table>				コマ数		1 健康とは	こころとからだのしくみを学ぶ目的	2 こころのしくみの理解	健康とは何か・こころとは何か	3	こころと高次脳機能	4	意識のしくみ	5	情動・記憶・学習のしくみ	6	人間の欲求の基本的理解・適応と適応機制	7 まとめ・単元試験		8 からだのしくみの理解	からだの成り立ちの理解	9	人体構造 ①脳・神経系	10	人体構造 ②骨格・筋系	11	人体構造 ③呼吸器系	12	人体構造 ④循環器系	13	人体構造 ⑤消化器系	14	人体構造 ⑥腎・泌尿器系	15 まとめ・単位認定試験	
コマ数																																			
1 健康とは	こころとからだのしくみを学ぶ目的																																		
2 こころのしくみの理解	健康とは何か・こころとは何か																																		
3	こころと高次脳機能																																		
4	意識のしくみ																																		
5	情動・記憶・学習のしくみ																																		
6	人間の欲求の基本的理解・適応と適応機制																																		
7 まとめ・単元試験																																			
8 からだのしくみの理解	からだの成り立ちの理解																																		
9	人体構造 ①脳・神経系																																		
10	人体構造 ②骨格・筋系																																		
11	人体構造 ③呼吸器系																																		
12	人体構造 ④循環器系																																		
13	人体構造 ⑤消化器系																																		
14	人体構造 ⑥腎・泌尿器系																																		
15 まとめ・単位認定試験																																			
〔使用テキスト〕 「介護福祉学5上 こころとからだのしくみ」 主婦の友社 「新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ」 中央法規		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) ・学則に定める通り ・レポート等の提出物																																	
〔参考文献〕 「からだのしくみ事典」 成美堂出版 ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能」 メディカ出版																																			

令和8年度 授業概要

科目名 こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 崎井 真弓 元 病院看護師
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護福祉科2年	
[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要となる心身の構造や機能および発達段階とその課題について振り返り、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を総合的にと捉えるための知識を身につける。			
[授業全体の内容の概要] 1 介護サービスを必要としている人々の多様なニーズに応えるための根拠となる知識を習得する 2 人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる知識を習得する			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1 身体構造・生理機能の理解 2 「睡眠」「人生の最終段階」のこころとからだのしくみを理解し、個々に応じた介護の根拠が理解できる 3 高齢者の理解と主な疾患、症状が理解できる			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 復習 2 3 4 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 5 6 7 人生の最終段階のケアに関連した 8 こころとからだのしくみ 9 10 11 12 高齢者の特徴と症状 13 14 15 まとめ・単位認定試験			
[使用テキスト] 「介護福祉学5上 こころとからだのしくみ」 主婦の友社 「介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ第2冊」 中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・学則に定める通り ・レポート等の提出物	
[参考文献] 「からだのしくみ事典」 成美堂出版 「ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能」 メディカ出版			

令和8年度 授業概要

科目名		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 崎井 真弓 元 病院看護師
医療的ケアⅠ			
授業の回数 34回	時間数 50時間	配当学年・時期 介護福祉科2年	
[授業の目的・ねらい] 生活支援を必要とする要支援者のうち、医行為を必要とする要支援者は増加傾向にある。尊厳を尊重する視点から、介護福祉士が医療的ケアを実施するニーズが高まっていることから、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する			
[授業全体の内容の概要] 医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養等が行えるための知識と技術を学習する。またその実施に伴い必要となる健康状態の把握、急変時の対応、清潔行為、感染予防等についても学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1 医療的ケアに関する基礎的知識が理解できる 2 喀痰吸引の基礎的知識および実勢手順と留意点を理解することができる 3 経管栄養の基礎的知識および実施手順と留意点を理解することができる			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数			
第1節 医療的ケアの基礎		20	気管カニューレ内部の吸引の実施手順
1	医療的ケアを学ぶ目的・医行為とは	21	気管カニューレ内部の吸引の留意点
2	医療的ケアの歴史的変遷・保健医療制度	22	子どもの吸引・喀痰吸引に伴うケア
3	個人の尊厳と医療の倫理 ①	23	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、記録・報告
4	個人の尊厳と医療の倫理 ②		
5	医療的ケアを安全に行うための研修	第3節 高齢者および障害児・者の経管栄養	
6	チーム医療と介護職員の連携	24	消化器系のしくみとはたらき・「経管栄養」とは
7	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施	25	注入する内容に関する知識
8	救急蘇生	26	経管栄養に係る感染と予防
9	健康状態の把握・急変状態について	27	経管栄養で用いる器具の理解・清潔保持
10	清潔保持と感染予防	28	胃ろう・腸ろう経管栄養の実施手順
11	滅菌と消毒 実技試験	29	胃ろう・腸ろう経管栄養の留意点
12	確認試験	30	経鼻経管栄養の実施手順
第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引		31	経鼻経管栄養の留意点
13	呼吸のしくみとはたらき・「喀痰吸引」とは	32	こどもの経管栄養・経管栄養に必要なケア
14	人工呼吸器と吸引	33	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、記録・報告
15	喀痰吸引で用いる器具の理解・清潔保持と感染予防	34	まとめ・単位認定試験
16	口腔内吸引の実施手順		
17	口腔内吸引の留意点		
18	鼻腔内吸引の実施手順		
19	鼻腔内吸引の留意点		
[使用テキスト] 最新「介護福祉士養成講座15 医療的ケア第2版 中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・学則に定める通り ・レポート等の提出物	
[参考文献] 「介護福祉士養成テキスト第4巻 医療的ケア」 日本介護福祉士養成施設協会 「最新介護福祉全書13 医療的ケア」 メジカルフレンド社			

令和8年度 授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
医療的ケアⅡ		(講義・演習)	崎井 真弓
			元 病院看護師
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
10回	20時間	介護福祉科2年	
[授業の目的・ねらい]			
生活支援を必要とする要支援者のうち、医行為を必要とする要支援者は増加傾向にある。尊厳を尊重する視点から、介護福祉士が医療的ケアを実施するニーズが高まっていることから、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する			
[授業全体の内容の概要]			
医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養等が行えるための知識と技術を学習する。またその実施に伴い必要となる健康状態の把握、急変時の対応、清潔行為、感染予防等についても学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
1 喀痰吸引の基礎的知識および実勢手順と留意点を理解することができる			
2 経管栄養の基礎的知識および実施手順と留意点を理解することができる			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1 救急蘇生の手順			
2 バイタルサインの手順			
3 口腔内吸引 基本手順			
4 口腔内吸引 試験			
5 鼻腔内吸引 基本手順・試験			
6 気管カニューレ内部の吸引 基本手順			
7 気管カニューレ内部の吸引 試験			
8 胃ろうおよび腸ろうから経管栄養 基本手順			
9 胃ろうおよび腸ろうから経管栄養 試験			
10 経鼻経管栄養 基本手順・手順			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準]	
最新「介護福祉士養成講座15 医療的ケア第2版 中央法規		(試験やレポートの評価基準など)	
		・学則に定める通り	
		・レポート等の提出物	
[参考文献]			
「介護福祉士養成テキスト第4巻 医療的ケア」 日本介護福祉士養成施設協会			
「最新介護福祉全書13 医療的ケア」 メジカルフレンド社			

令和8年度 授業概要

科目名 介護過程Ⅱ		授業の種類 講義・演習	授業担当者 崎井 真弓 元 病院看護師	
授業の駒数 30	時間数 60	学科 介護福祉科	学年 2	配当時期 通年
〔授業の目的・ねらい〕 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行ない、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。				
〔授業全体の概要〕 介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法について学習する。 個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開について学習する。				
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法について理解する。 個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開について理解する。				
〔授業の各回テーマ・内容〕 1 受け持ち利用者の介護計画の整理 疾患・リスクに着目したアセスメント 2 ICFの視点による情報の整理 生活課題の抽出 3 アセスメント演習（事例①） ICF構成因子の関連性をみる 4 目標および具体的援助内容について ニーズの原因を考え、その対策を具体的ににする 5 目標および具体的援助内容について 6 事例②介護過程の展開 脳血管障害がある人の介護過程の展開① 7 脳血管障害がある人の介護過程の展開② 8 脳血管障害がある人の介護過程の展開③ 9 脳血管障害がある人の介護過程の展開④ 10 事例③介護過程の展開 終末期における介護過程の展開① 11 終末期における介護過程の展開② 12 終末期における介護過程の展開③ 13 介護過程の実施と評価 記録様式 14 介護過程の展開の理解（実践的展 受け持ち利用者の介護計画の整理① 15 受け持ち利用者の介護計画の整理② 16 受け持ち利用者の介護計画・実施・評価の整理① 17 受け持ち利用者の介護計画・実施・評価の整理② 18 介護過程における事例検討・事例研究 受け持ち利用者の介護過程を振り返る 19 受け持ち利用者の介護過程を振り返る 20 受け持ち利用者の介護過程を文献より考察する 21 受け持ち利用者の介護過程を文献より考察する 22 受け持ち利用者の介護過程をまとめる 23 受け持ち利用者の介護過程をまとめる 24 介護過程とチームアプローチ 介護福祉職がチームとして介護過程を展開する意義・カンファレンスの意義・目的 25 介護サービス計画と個別サービス計画の関係 26 多職種連携における介護過程の展開の意義とサービス担当者会議 27 介護過程のまとめ 全体復習 28 国家試験対策 29 単位認定試験 30				
〔使用テキスト〕			〔単位認定の方法及び基準〕	
「最新介護福祉士養成講座」 9 介護過程 中			・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物	
〔参考文献〕				
「介護福祉学5上 こころとからだのしくみ」				

令和8年度 授業概要

科目名 介護総合演習Ⅰ		授業の種類 (講義・演習)(実習)	授業担当者 崎井 真弓 元 病院看護師
授業の回数 30回	単位数 4単位	配当学年・時期 介護福祉科1年・通年	
[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 1. 介護総合演習の意義と目的について学習する。 2. 介護福祉士の職業倫理を学習する。 3. 実習施設の種別、内容、特徴について学習する。 4. 対人援助技術の基本的知識と技術の統合について学習する。 5. 介護記録、実習記録の書き方について学習する。 6. 実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合する。 7. 実習で受け持った事例について介護過程を展開する。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. 介護総合演習の意味と意義について理解する。 2. 介護福祉士の職業倫理について理解する。 3. 実習施設の種別、内容、特徴等について理解する。 4. 対人援助技術の基本的知識と技術の統合について理解する。 5. 介護記録、実習記録の書き方について理解する。 6. 実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合し、自己の課題を明確にする。 7. 実習で受け持った事例について介護過程を展開できる。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]			
コマ数 1 知識と技術実習の意義と目的 2 実習Ⅱのねらい 到達目標 3 介護保険制度等の理解 4 施設の理解 介護保険施設・有料老人ホーム等 5 基礎実習の目標 6 個人票・誓約書・施設概要 7 実習記録の意義・目的 8 実習記録の書き方 9 実習前オリエンテーション・心構え 10 実習自己評価・お礼状 11 実習の振り返りと学びの共有① 12 実習の振り返りと学びの共有② 13 報告会準備① 14 報告会準備② 15 報告会準備③ 16 実習報告会 17 実習Ⅱのねらい 到達目標 18 法制度と施設の理解 介護保険施設・有料老人ホーム等 19 参加実習の目標 20 個人票・誓約書・施設概要 21 実習記録の書き方 22 実習前オリエンテーション・心構え 23 実習自己評価・お礼状 24 実習の振り返りと学びの共有 25 実習の振り返りと学びの共有 26 報告会準備① 27 報告会準備② 28 報告会準備③ 29 実習報告会 30 試験・まとめ			
[使用テキスト] 「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」(中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 学則の通り	
[参考文献] 「令和8年度 介護実習の手引き」広島福祉専門学校			

令和8年度 授業概要

科目名 生活支援技術Ⅰ		授業の種類 (講義・演習(実習))	授業担当者 崎井 真弓 元 病院看護師
授業の回数 10回	単位数 1.33/4単位	配当学年・時期 介護福祉科1年 後期	
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 身じたくと家事に関する利用者のアセスメント、生活習慣と装いの楽しみ、衣生活の調整能力、状態・状況に応じた身じたくと家事の留意点について学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 身じたくと家事に関する利用者のアセスメント、生活習慣と装いの楽しみ、衣生活の調整能力、状態・状況に応じた身じたくと家事の留意点について理解する。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 自立を支える家事支援の意義 2 衣服の基本的知識と洗濯の技法 3 衣生活の介護の技法 衣服の洗濯と手入れ 4 衣類・寝具の衛生管理の介護 5 掃除・ゴミ捨ての技法 6 買い物・家庭経営・家計の管理 7 裁縫の介護① 8 裁縫の介護② 9 家事の介護における多職種との連携 10 まとめ・単位認定試験 11 12 13 14 15			
[使用テキスト] 「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 学則に定める通り	
[参考文献]			

令和8年度 授業概要

科目名 コミュニケーション技術		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 澤田祥子 広島県事業手話通訳士
授業の回数 10コマ	単位数 1.33/4単位	配当学年・時期 介護福祉科1年	
[授業の目的・ねらい] 聴覚障害を正しく理解する・初歩的な手話でのコミュニケーションが取れる			
[授業全体の内容の概要] ・講義(聴覚障害への知識 福祉制度 等) ・実技演習(初歩的な手話の習得 手話で簡単なコミュニケーション演習)			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 聴覚障害を正しく理解する 身の回りのことが手話で話せる。初歩的な手話でのコミュニケーションが取れる 聴覚障害者の気持ちを察することが出来る			
[授業終了時の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 講義:コミュニケーション方法と留意点 実技:聴覚障害者とのコミュニケーション方法 2 講義:聴覚障害の区別 実技:名前の表現・指文字 3 講義:聴覚障害の基礎知識(機能障害) 実技:挨拶 4 講義:聴覚障害者福祉制度① 実技:数の表現 5 講義:聴覚障害者福祉制度② 実技:趣味の表現 6 講義:聴覚障害児教育 実技:家族の表現 7 講義:ろうあ運動 実技:住所の表現 8 講義:合理的配慮 実技:自己紹介 9 まとめ(実技試験・筆記試験) 10 講義:ろう者から学ぼう 実技:ろう者と話してみよう			
[使用テキスト] 聞こえない人とのコミュニケーション		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。	
[参考文献]			



2026年度 授業概要

科目名 人間関係とコミュニケーション		授業の種類 (講義)	授業担当者 藤原 久礼 元 有料老人ホーム事務長 元 自立援助ホーム相談員
授業の回数 10	時間数 20	配当学年・時期 介護福祉科 2年生 前期	
[授業の目的・ねらい] 介護専門職同士のチームとしての連携・協働、あるいは多職種連携に伴うチーム介護の基本的な理論と知識の習得を目指す。また、チームアプローチとして協働して介護にあたるためのチームマネジメント方法についての基本的な知識・技術の習得を行う。さらにチームアプローチにおけるコミュニケーション方法と技術を理解する。			
[授業全体の内容の概要] ①組織におけるコミュニケーション方法 ②介護実践におけるチームマネジメント ③人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント ④リーダーシップとフォロアーシップ ⑤介護サービスを支える組織の構造・機能・管理方法			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ①組織内におけるコミュニケーション技術を身に付ける。 ②チームマネジメントと協働について理解する。 ③多職種連携におけるコミュニケーション能力を身に付ける。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 介護にかかわる専門職の種類と役割 2 施設介護と地域生活の支援で考えられる支援機関・団体・人材 3 ケースカンファレンスとコミュニケーション方法(ケアマネジメントを中心に) 4 チーム内でのコミュニケーション方法 5 リーダーシップとフォロアーシップ(求められるリーダー像とフォロアー像) 6 報告・連絡・相談の重要性。引継ぎ・記録の重要性 7 人材育成(組織内研修、組織外研修(OJTとOFF-JTを含む)自己研鑽(キャリアデザインを含む) 8 チームで与えられた課題に取り組もう 9 スーパービジョンの種類と役割 10 まとめ 11 12 13 14 15			
[使用テキスト] 適宜授業のレジュメを配布する		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 授業の取り組み:20% 筆記試験:80%	
[参考文献] 介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座1 人間の理解』中央法規出版			

令和8年度 授業概要

科目名 コミュニケーション技術		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 山崎 年幸 元病院介護福祉士
授業の回数 5回	単位数 0.67/4単位	配当学年・時期 介護福祉科 1年前期	
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者の家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 1. 利用者とのコミュニケーションの必要性和関係づくりを学ぶ。2. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法を学ぶ。3. レクリエーションを通した利用者との関係性や職員間同士の連携協働の必要性を学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. 利用者とのコミュニケーションの必要性和関係づくりを理解する。2. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法を理解する。3. レクリエーションを通した利用者との関係性や職員間同士の連携協働の必要性について理解する。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 レクリエーションの意義と目的 2 さまざまな利用者に対するレクリエーション 3 レクリエーション支援計画 4 レクリエーション支援計画の実施 5 レクリエーション支援計画の評価・まとめ			
[使用テキスト] 「楽しさをおとした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」公益財団法人 日本レクリエーション協会		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 基準は学則に定める通り。演習等の取り組み、提出物、グループでの協力・発表等を勘案して評価する。	
[参考文献] 「レクリエーション支援の基礎 楽しさ・心地よさを活かす理論と技術」財団法人 日本レクリエーション協会			

令和8年度 授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者 山崎 年幸
介護の基本Ⅱ		《講義・演習》	元病院介護福祉士
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15	30	介護福祉科2年 通年	
[授業の目的・ねらい]			
「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。さらに、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。			
[授業全体の内容の概要]			
1. 介護における安全の意義とリスクマネジメントを学習する。2. 施設・在宅における安全対策と感染予防を学習する。3. 介護従事者の健康と安全を学習する。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
1. 介護における安全の意義とリスクマネジメントについて習得する。2. 施設・在宅における安全対策と感染予防について習得する。3. 介護従事者の健康と安全について習得する。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	介護における安全の確保とリスクマネジメント	生活における安全確保の意義と目的	
2		転倒・転落防止、骨折予防、多面的予測	
3		施設・在宅での事故の特徴と対策	
4		チームアプローチ、緊急・事故対応	
5		防火・防災対策・消費者対策	
6		感染予防の意義と介護	
7		感染管理と衛生管理	
8	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的	
9		心の健康管理	
10		身体健康管理	
11		働く人の健康や生活を守る法制度	
12		労働環境の整備	
13	介護の基本復習	介護の基本復習①	
14		介護の基本復習②	
15	試験	試験・まとめ	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準]	
介護福祉士養成講座編集委員会編「初級・中級・上級介護福祉士養成講座4」介護の基本Ⅱ 中央法規出版		(試験やレポートの評価基準など) 学則に定めるとおり	
[参考文献]			
西村洋子編集「最新介護福祉全書3」介護の基本 メヂカルフレンド社			

令和 8 年 度 授 業 概 要

科目名 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 牟田口 辰巳 元広島大学大学院教育学研究科 特別支援教員講座教授
授業の回数 2	時間数 4	配当学年 介護福祉科 2 年	時期 通年
〔授業の目的・ねらい〕 介護福祉士には、障害のある人の一人ひとりの尊厳を保持し、見守ることを含めた適切な介護技術を用いた生活支援が求められる。 この科目では、視覚障害について			
〔授業全体の内容の概要〕 ・ 視覚障害の詳しい原因や症状、制度的な位置づけ ・ 具体的にどのような生活上の困りごとが生じるのか、その困りごとに対して、介護福祉士としてどのようなかわりができるのかを学ぶ。			
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 ・ 視覚障害のある人の生活上の困りごとを理解できる ・ 視覚障害のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解できる			
〔授業の各回のテーマ・内容〕 1. 視覚障害について（概論） 2. 視覚障害と盲導犬の理解 3. 障害スポーツの理解と体験 4. 点字の理解とその実際 5. 触察を通した触覚心理学			
〔使用テキスト〕 配布資料		〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） ・ 学校規定に準ずる ・ レポートなど提出物などの提出の有無も採点の評価となる。	
〔参考文献〕 ・ 中川義基編著：介護福祉学『障害の理解』，主婦の友社 ・ 谷口敏代・中村裕子編集：最新介護福祉全書『生活支援技術Ⅱ（障害編）』，メヂカルフレンド社			

令和8年度 授業概要

科目名 介護実習Ⅰ		授業の種類 実習	授業担当者 河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師			
授業の駒数	時間数 45	学科 介護福祉科	学年 2	配当時期 後期		
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を学習する。地域における様々な介護の場において、関連する制度について学習を深める。						
〔授業全体の概要〕 介護実習では、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場における個別ケアを理解する。利用者・家族とのコミュニケーションの実践、個別に応じた介護技術の確認ができるようにする。 また、実習を通して、利用者に関連する介護保険法、障害者総合支援法をはじめとした、利用者にかかわる制度理解につなげる。						
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 高齢者や障害のある人が生活している地域社会には、制度に応じて、多様な介護サービスがあることを理解し、他職種との連携によって、利用者の生活を支えていることを理解する。						
〔授業の各回テーマ・内容〕 <table><tr><td>基礎実習Ⅰ</td><td>実習施設・事業所（Ⅰ） 通所介護 訪問介護 通所リハビリテーション 小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護 地域活動支援センター 医療型障害児入所施設</td></tr></table>					基礎実習Ⅰ	実習施設・事業所（Ⅰ） 通所介護 訪問介護 通所リハビリテーション 小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護 地域活動支援センター 医療型障害児入所施設
基礎実習Ⅰ	実習施設・事業所（Ⅰ） 通所介護 訪問介護 通所リハビリテーション 小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護 地域活動支援センター 医療型障害児入所施設					
〔使用テキスト〕 「最新介護福祉士養成講座 10介護総合演習・介護実習」 中央法規			〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物			
〔参考文献〕						

令和8年度 授業概要

科目名 介護実習Ⅱ		授業の種類 実習	授業担当者 河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師	
授業の駒数	単位数 2	学科 介護福祉科	学年 1	配当時期 後期
〔授業の目的・ねらい〕 地域における入所施設において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との連携の中で、介護過程を実践する能力を養う実習とする。				
〔授業全体の概要〕 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を理解する。				
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 ①基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に行う必要があることを理解する。 ②利用者との人間的なふれあいを通じてコミュニケーションを深め、利用者のニーズや介護の機能について理解する。 ③高齢者や障害のある人が生活している社会には、多様な介護サービスがあることを理解し、多職種との連携によって、利用者の生活を支えていることを理解する。				
〔授業の各回テーマ・内容〕 基礎実習Ⅱ 実習施設・事業所等（Ⅱ） 介護老人福祉施設 介護老人保健施設 広島原爆養護ホーム 障害者支援施設 サービス付き高齢者住宅 住宅型有料老人ホーム 指定養護老人ホーム				
〔使用テキスト〕 「最新介護福祉士養成講座 10介護総合演習・介護実習」 中央法規			〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物	
〔参考文献〕				

令和8年度 授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者 河野 ひろ子	
介護実習Ⅲ		実習	元 病院・高齢者施設看護師	
授業の駒数	単位数	学科	学年	配当時期
	3	介護福祉科	1	後期
〔授業の目的・ねらい〕 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との連携の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。				
〔授業全体の概要〕 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。 個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画を作成し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本を学ぶ。				
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 ①高齢者や障害のある人が、その人らしく生活を送るために必要な多職種との協働や連携について学び、根拠に基づく介護実践の重要性を理解する。 ②介護過程に関する既習の知識・技術を基に、担当する利用者の情報を収集・分析・統合して、生活上の課題を抽出し、介護計画の立案ができる。 ③施設のカンファレンス等に参加し、介護をするうえで必要な多職種の役割について学び、生活を支援するチームの一員として協働すること及び介護福祉士の担う役割について理解する。				
〔授業の各回テーマ・内容〕 参加実習 実習施設・事業所等（Ⅱ） 介護老人福祉施設 介護老人保健施設 広島原爆養護ホーム 障害者支援施設 サービス付き高齢者住宅 住宅型有料老人ホーム 指定養護老人ホーム				
〔使用テキスト〕 「最新介護福祉士養成講座 10介護総合演習・介護実習」 中央法規			〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物	
〔参考文献〕				

令和8年度 授業概要

科目名 介護実習Ⅳ		授業の種類 実習	授業担当者 河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師	
授業の駒数	時間数 180	学科 介護福祉科	学年 2	配当時期 前期
〔授業の目的・ねらい〕 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との連携の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。				
〔授業全体の概要〕 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。 個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。				
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 ①利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から実際の場面での介護過程の展開ができる。 ②チームの一員として介護に関わり、介護の専門性を踏まえた評価及び記録ができる。 ③介護福祉士としての自己の介護観が述べられる。				
〔授業の各回テーマ・内容〕 総合実習 実習施設・事業所等（Ⅱ） 介護老人福祉施設 介護老人保健施設 広島原爆養護ホーム 障害者支援施設 サービス付き高齢者住宅 住宅型有料老人ホーム 指定養護老人ホーム				
〔使用テキスト〕 「最新介護福祉士養成講座 10介護総合演習・介護実習」 中央法規			〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物	
〔参考文献〕				

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）

社会福祉科 360時間

実務経験のある教員等リスト

教員名	科目	時間数	教員の实務経験
内平 八重子	高齢者支援展開論	30	保健師 社会福祉協議会社会福祉士、センター長
	ソーシャルワーク演習Ⅶ	30	
	専門演習	30	
	ソーシャルワーク実習	180	
砂橋 昌義	福祉レクリエーション援助技術	60	全国福祉レクリエーション・ネットワーク 事務局長・副代表 NPO法人ひろしまレクリエーション協会 理事長
藤原 久礼	社会福祉運営管理論	30	有料老人ホームに事務長として勤務 自立援助ホームに相談員として勤務
	合計	360	

令和8年度 授業概要

科目名 ソーシャルワーク演習Ⅴ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子 元保健師・社会福祉協議会勤務
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科4年 前期	
[授業の目的・ねらい] 1)実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 2)実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。			
[授業全体の内容の概要] ・ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験、つまりソーシャルワーク実習での体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。 ・グループワーク等で他者と意見交換し、自分の意見の修正や他者との調和を図る。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1)実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 2)実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション／ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのふりかえり 2 スーパービジョンの方法 3 ケースカンファレンスの方法 4 事例研究(1)インシデントをまとめる 5 事例研究(2)プレゼンテーション用資料まとめ 6 事例研究(3)プレゼンテーション用資料まとめ 7 事例検討(1)事例研究(1)のプレゼンテーション実施 8 事例検討(2)事例研究(1)のプレゼンテーション実施 9 事例検討(3)事例研究(1)のスーパービジョンの実施 10 事例検討(4)事例研究(1)のスーパービジョンの実施 11 ソーシャルワーク実戦と専門知識・技術(1)事例研究(1)の事例を振り返る 12 ソーシャルワーク実戦と専門知識・技術(2)事例研究(1)の事例を振り返る 13 自身のソーシャルワーカー像の整理(1) 14 自身のソーシャルワーカー像の整理(2) 15 まとめ／単位認定試験			
[使用テキスト] 最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習(社会専門) 中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 実習報告書 70% 取組の態度 15% プレゼンテーション 15%	
[参考文献] 『養成講座11ソーシャルワークの基盤と専門職(共通)』 『養成講座12ソーシャルワークの理論と方法(共通)』 『養成講座6ソーシャルワークの理論と方法(専門)』			

令和8年度 授業概要

科目名 ソーシャルワーク実習		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子 元保健師・社会福祉協議会勤務
授業の回数 90コマ	時間数 180時間	配当学年・時期 社会福祉科4年 後期	
[授業の目的・ねらい] 厚生労働省により定められている指定施設・機関を実習先とし、施設・機関の役割及びサービス利用者やその関係者について学び、利用者やその家族のニーズに応じた相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実的に理解し、実践的な技術を体得します。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得するとともに、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。			
[授業全体の内容の概要] ソーシャルワーク実習は、異なる機関・事業所の2カ所以上で3年次、4年次の2回に分けて行うこととする。 3年次の実習は60時間、利用者理解、施設理解を中心とする。4年時には、1つの機関・事業所において以下の要件を含めた 180 時間以上の実習を行う。 ①1つの機関・事業所において、一定期間以上継続して実習を行う中で、支援計画の作成、実施、評価といったソーシャルワークの一連の過程を網羅的に実践すること。 ②実習機関・事業所と、複数の機関・事業所や地域との関係性を含めた、総合的かつ包括的な支援について実践的に学ぶ実習とすること。 ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1.ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 2.支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。 3.生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 4.施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 5.総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1.基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成について学ぶ 2.社会福祉施設・機関の経営やサービスの管理運営について学ぶ 3.社会福祉施設・機関の利用者、また生活ニーズについて学ぶ 4.社会福祉施設・機関の職員の役割、また他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ 5.クライアントへの援助実践を通じて、相談援助技術を高める 6.社会福祉施設・機関と地域社会との関係性について理解し、地域社会への具体的な働きかけについて学ぶ 7.社会福祉士としての職業倫理、職員の就業に関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任について学ぶ			
[使用テキスト] 「社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワーク実習指導・実習(社会専門8)」中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 相談援助実習指導の授業および、実習施設における実習評価によって判断する。	
[参考文献]			

令和8年度 授業概要

科目名 高齢者支援展開論		授業の種類 (講義)演習・実習)	授業担当者 内平 八重子 元保健師・社会福祉協議会勤務						
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科4年 前期							
[授業の目的・ねらい] 介護は介助・看護の技術に、監護、つまり、人を見守るという教育的な意味合いが加味された概念である。 これに対して、福祉サービスは、人が人と関わり合うなかで成立する、よりよく生きていく過程への関与である。相違点や類似点を確認し、福祉サービスの必要性・位置づけ・提供について学ぶ。									
[授業全体の内容の概要] 加齢疾病や障害等による要介護者への福祉サービスの提供と介護のあり方を、介護支援サービスの必要性とその位置づけ、社会福祉(対人サービス)との関連性など、可能な限り多くの角度から検討する。 また、居宅サービス、施設サービス事業の具体的な内容も検討する。									
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護の概念を理解する。 福祉サービスとの相違点や類似点を確認し、福祉サービスの必要性・位置づけ・提供について学ぶ。									
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 介護保険と介護支援サービス(介護の目的と支援サービス) 2 介護保険制度の概要(理念、保険者、事業計画、認定等) 3 居宅介護支援(指定居宅介護支援事業者、居宅介護支援の目的と内容) 4 居宅サービス(1)介護支援サービスの提供者 5 居宅サービス(2)介護支援サービスと訪問介護 6 介護保険施設(指定介護老人福祉施設等の内容、基準、施設サービス計画) 7 高齢者の特徴と高齢期に多い疾病及び障害(身体的・精神的特徴、高齢者に多い疾病) 8 認知症高齢者の介護(1)老年性認知症の特徴とアセスメント 9 認知症高齢者の介護(2)認知症高齢者・家族への援助と介護支援サービス 10 精神に障害のある場合の介護(高齢者の精神障害とその介護) 11 在宅での医療管理(在宅自己注射、悪性腫瘍疼痛管理、人工透析、在宅酸素療法、経管栄養他) 12 終末期介護(本人・家族とのかかわり、在宅ケア、チームケア) 13 ソーシャルワーク(援助困難事例への対応) 14 社会資源の活用(社会資源、地域包括支援センター、在宅介護支援センター) 15 高齢者の権利擁護(高齢者虐待、成年後見制度、福祉サービス利用援助事業)									
[使用テキスト] 介護支援専門員基本テキスト十訂 長寿社会開発センター		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) <table><tr><td>試験</td><td>70%</td></tr><tr><td>授業態度</td><td>15%</td></tr><tr><td>提出物</td><td>15%</td></tr></table>		試験	70%	授業態度	15%	提出物	15%
試験	70%								
授業態度	15%								
提出物	15%								
[参考文献] 新聞記事等随時配布									

令和8年度 授業概要

科目名 専門演習		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子 元保健師・社会福祉協議会勤務						
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科4年 後期							
[授業の目的・ねらい] 自己理解・他者理解を深める。 事例検討を通して、課題のとらえ方や考え方を理解する。 事例に対して見立てができる。									
[授業全体の内容の概要] 事例を例示し、グループワークやロールプレイを通して課題のとらえ方や考え方を理解する。 事例の課題解決に向け、関連する制度や社会資源について整理する。 事例に出てくる用語について、他者に説明できる程度まで理解する。									
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 事例を例示し、課題のとらえ方や考え方を理解でき、見立てができる。 事例の課題解決に向け、関連する制度や社会資源をイメージできる。 事例に出てくる用語について、他者に説明できる程度まで理解できる。									
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 事例検討「障害者虐待」 2 事例検討「認知症と生活困窮」 3 事例検討「保健医療」 4 事例検討「こころの障害」 5 事例検討「DV母子の支援①」 6 事例検討「DV母子の支援①」 7 事例検討「介護サービス利用」 8 事例検討「CSW」 9 事例検討「MSW」 10 事例検討「生活困窮」 11 事例検討「ひきこもり」 12 事例検討「MSW②」 13 事例検討「地域福祉活動の実際」 14 事例検討「コミュニケーションスタイル」 15 事例検討「倫理的ジレンマ」／まとめ									
[使用テキスト] 社会福祉士相談援助演習 中央法規 その他、適宜、資料を配布する		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) <table><tr><td>授業態度</td><td>20%</td></tr><tr><td>演習参加姿勢</td><td>30%</td></tr><tr><td>口頭試験</td><td>50%</td></tr></table>		授業態度	20%	演習参加姿勢	30%	口頭試験	50%
授業態度	20%								
演習参加姿勢	30%								
口頭試験	50%								
[参考文献]									

令和8年度 授業概要

科目名 福祉レクリエーション援助技術		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 砂橋 昌義 広島県レクリエーション協会事務局長
授業の回数 30コマ	時間数 60時間	配当学年・時期 社会福祉科 4年 通年	
[授業の目的・ねらい] レクリエーションの持つ楽しさや心地よさを活用して、人々を支援するための、基礎的な考え方や技術を身につける。 援助技術を身につけた福祉レクリエーション・ワーカーの育成と資格取得対策。			
[授業全体の内容の概要] 社会福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性を尊重する姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につけた福祉レクリエーションワーカーの育成と資格取得を目指した試験の対策。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護現場で、楽しさ・心地よさを引き出すレクリエーション支援ができる福祉レク・ワーカーの資格取得。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の考え方 2 レクリエーション財の分類とレクリエーション財をどう生かすかの方策 3 レクリエーション財の活動分析の考え方と方法 4 活動分析の方法とその分析をどのように活用するかの方策 5 障害や個人に対応したレクリエーション財の選択・開発・アレンジ 6 レクリエーション財のアレンジの実際 7 事例からみたレクリエーション財の提供の仕方 8 情報収集、人的ネットワーク、社会資源の活用方策 9 楽しみを基調とした回想法・音楽療法・園芸療法 10 楽しみを基調としたフラワーセラピー・化粧療法・動物介在療法 11 楽しみを基調にしたダンス療法・プレイセラピー 12 援助のための対人援助者に求められる資質 13 援助のためのコミュニケーション技法 14 実践例題(言葉かけとリスニング) 15 援助者の人間開発トレーニング 16 老人病院でのレクリエーション援助 17 老人保健施設におけるセラピューティックレクリエーションの取り組み 18 特別養護老人ホームでのレクリエーション援助 19 通所としての老人デイサービスセンターでのレクリエーション援助 20 ホームヘルプサービス利用者へのレクリエーション援助 21 心身障害者施設でのレクリエーション援助 22 精神病院でのレクリエーション援助 23 知的障害者施設でのレクリエーション援助 24 児童施設でのレクリエーション援助 25 地域ボランティアとしてのレクリエーション援助 26 福祉レクリエーションワーカー・プログラム計画書の作成 27 個人への直接のレクリエーション援助の実技試験クリニック 28 グループへのレクリエーション援助の実技試験クリニック 29 福祉レクリエーションワーカー模擬筆記試験 30 福祉レクリエーションワーカー学内審査			
[使用テキスト] 楽しさの追求を支えるための介入技術 ～公益財団法人 日本レクリエーション協会編～		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。	
[参考文献] よく分かる福祉レクリエーションサービス実施 マニュアル 3			

2026年度 授業概要

科目名 社会福祉運営管理論		授業の種類 (講義)	授業担当者 藤原 久礼 元 有料老人ホーム事務長 元 自立援助ホーム相談員
授業の回数 15	時間数 30	配当学年・時期 4年生 後期	
[授業の目的・ねらい] 様々な福祉ニーズに対して、多数の社会資源がそのニーズを充足し人々の生活支援を行っている。それぞれの事業所・施設では、サービスの担い手、物資・サービス、資金を総動員しながら、要援助者のニーズ充足に関わっている。適切にサービス事業を運営し管理し、円滑なサービスの供給を行っていかなければ円滑な経営はできない。本講義では運営管理の視点を通して、福祉サービスの円滑な提供について講義を行う。			
[授業全体の内容の概要] 福祉サービスの運営管理といっても、その内容は福祉サービス以外の事業とも共通点が多い。これまで、学生の皆さんは、さまざまな職業やアルバイト、あるいはサークル活動やボランティア活動などを行った経験があるだろう。その経験を活かし、授業ではグループディスカッションを行い、意見を集約し発表してもらう機会を持ち、運営とは何か管理とは何かについて考え、最終的には社会福祉の運営管理について理解することを授業の内容とする。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 社会福祉士国家試験受験に必要な知識と技術を習得する。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 戦略とは何か 2 グループで基本理念(経営理念)と行動指針と基本姿勢を立ててみよう 3 グループごとの基本理念行動理念・基本姿勢の発表 4 事業計画とは何か 5 グループで事業計画(長期目標、短期目標、短期目標を達成する具体的な手段)を立ててみよう 6 グループごとの事業計画の発表 7 管理運営の基礎理論 8 集団の力学に関する基礎理論 9 事業所にとってどの様なリーダーが望ましいだろうか?(グループでブレインストーミングを行う)① 10 事業所にとってどの様なリーダーが望ましいだろうか?(グループでブレインストーミングを行う)② 11 ブレインストーミングの発表(グループごとに発表を行う) 12 リーダーシップに関する基礎理論 13 労働管理(事業マニュアルの作成) 14 労働管理(病院での1か月のシフト表を作ってみよう) 15 まとめ			
[使用テキスト] 適宜授業でプリントを配布する		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ①授業への参加度15% ②グループ活動後のレポート25% ③筆記試験60%	
[参考文献] 指定する文献はありませんが、NHKんのプロジェクトXや興味があった経営の本を読んでみましょう。			